

政府が公表した「女性版骨太の方針2023」では、女性活躍・男女共同参画は、多様性が尊重される社会の実現、我が国の経済社会の持続的な発展において不可欠であり、企業においてイノベーションの喚起と事業変革を促し企業価値を高めることに資するとされました。その方針を受け、東京証券取引所プライム市場上場企業を対象として2030年までに女性役員比率を30%以上にすることを指すよう求めました。女性活躍・男女共同参画は国家的な課題であり、上場会社にとっては最優先で取り組まなければならない経営課題の一つとして強く認識されていることでしょう。

日本公認会計士協会近畿会では、日本公認会計士協会内でも全国に先んじて女性会計士委員会を立ち上げ、女性会計士の活躍の場を拡げる活動を続けてきており、監査業務だけではなく様々な領域で活躍する女性会計士のネットワークを構築してきました。公認会計士は、監査業務を通じて会計・監査の専門家として客観的な視点から企業を理解し客観的な事実に基づき判断するという能力と経験を積み重ねています。女性会計士は、その専門家としての能力と経験に加え、女性としての視点を提供することを通じて企業におけるイノベーション・事業変革を促し、企業の持続的な成長を促す不可欠な存在として活躍するものと期待しています。



会長 洪 誠悟

2015年のコーポレートガバナンス・コード導入以降、上場企業における社外役員の役割と責務は益々高まっております。ステークホルダーの視点で企業経営を監視し、適正な企業運営確保のため、社外役員は重要な役割を果たしております。公認会計士はその担い手として適しており、社会の期待に応えるべく、その資質向上に努めています。

近畿会では、既に様々な分野で活躍されている女性会計士が多数おりますが、その何かをご紹介することにより、女性会計士の活躍の様を知っていただければと本冊子を作成いたしました。

形式から実質へとガバナンス改革が進化する中、コミュニケーション能力にも長けた女性公認会計士は、企業のダイバーシティ推進を促し、持続可能な成長を支え、企業価値向上へ貢献いたします。

本冊子を手にとっていただきました企業の皆様のご発展と社外役員選任における一助となれば幸いです。



副会長 藤枝 政雄

社外役員に公認会計士の登用をご検討中の 企業の担当者の皆様へ

～社外役員候補としての公認会計士紹介のご案内～

日本公認会計士協会近畿会では、社外役員に公認会計士の登用をご検討している企業に対し、公認会計士を紹介する制度を設けております。ご希望がございましたら下記紹介窓口までご連絡ください。詳しい要領につきご説明させていただきます。

社外役員候補公認会計士紹介窓口

日本公認会計士協会近畿会 事務局(会員業務推進部担当)

TEL 06-6271-0400
(平日 9:00～17:00 土、日曜日、祝日を除く)

WEB <https://kinki.jicpa.or.jp/>

お問い合わせ kaiin@jicpa-ml.net



(注) 1)当制度の利用は無料です。
2)当協会が公認会計士を紹介した後は、貴社と当該公認会計士との間で直接連絡を取り合い、交渉いただきます。
3)途中経過、最終的な結果について、紹介窓口へ連絡願います。



日本公認会計士協会 近畿会

信頼の力を未来へ
Building trust, empowering our future

女性
会
計
士

社
外
役
員



的確な分析力・判断力をもつ、百戦錬磨の女性会計士。

社外役員として様々な企業を支えています。

近畿会に、全国に先駆けて女性会計士委員会を創設し、女性活躍や社外役員の推進を図っています。2019年から日本公認会計士協会の副会長、近畿会会長に就任し、公認会計士業界の魅力向上と後進育成に尽力してきました。監査法人退職後は、公認会計士としての会計・監査の知見や経験などを生かし、企業の役員の一員としてコーポレート・ガバナンスの一端を担い、企業の持続的成長や中長期的な企業価値の向上に貢献したいと思い、社外役員を務めています。

取締役会では、企業の成長と企業価値向上のため、資本コスト、資本収益性や株価を意識した経営ができているか、事業ポートフォリオの見直しや経営資源の配分が適切か等について議論しています。その際、公認会計士としての視点からの会計処理だけでなく、M&Aでの事業計画の検討、のれんの評価、買収後の課題の認識・対応、設備投資の採算性や事後的なモニタリングについても意見を述べるようにしています。監査法人時代に、事業リスクや内部統制等について経営者と議論し、不祥事発生の際には監査責任者として対応してきた経験が役立っています。

北山 久恵

現在、上場会社（東証プライム）2社の社外役員

- 監査役会設置会社の社外取締役
- 監査役会設置会社の社外監査役

1986年 公認会計士登録
1999年 監査法人のパートナーに就任
2013年 監査法人の常務理事就任
2019年 日本公認会計士協会近畿会会長（～2022年6月）
2019年 日本公認会計士協会副会長（～2022年7月）
2020年 監査法人定年退職
北山公認会計士事務所開設（現在に至る）
2021年 兵庫県立大学大学院社会科学研究所 会計専門職専攻特任教授（現在に至る）

企業の成長と価値向上のため
社外役員の役割を果たす
覚悟を持って研鑽中。



また、社外役員として適切で有効な発言をするためには、情報収集と関係者との連携が欠かせません。そのため社外役員間で情報交換したり、平時から現場に赴いたり、部署との意見交換にリモートで参加したりして積極的にコミュニケーションをとるよう心がけています。特に、グローバルに展開している企業の場合、グループ経営、グループガバナンス体制の強化は重要な課題であり、迅速な情報収集・課題の共有・早期解決に取り組めるよう、三様監査（監査役等監査、会計監査人監査、内部監査）の連携を深めています。

企業にとって「ダイバーシティの推進」は重要な経営戦略です。取締役会等において、女性会計士として多様性の一部を担いつつ、自分自身も異なる視点の意見をしっかり受け止め自分の中で消化したうえで議論を深めることに留意しています。新たな視点はイノベーション創出やリスク管理に重要です。企業内のダイバーシティや女性活躍推進のために、女性役員候補者や管理職の育成の研修や懇談会で後押しすることも自分の役割と考えています。

社外役員には、コーポレート・ガバナンスを強化し、企業の持続的成長や中長期的な企業価値の向上を図ることが期待されています。このような役割を果たすには、かなりの時間と労力を使う覚悟が必要であり、研鑽は今も続いています。

監査法人に勤務していた頃は、会計監査人として取締役会議事録などを閲覧し、取締役の方々とのコミュニケーションを行い、企業への理解を深めましたが、その目的はあくまでも会計監査です。現在、社外役員の立場で取締役会などに出席することになり、意思決定プロセスの理解度の違いを痛感しています。スキルや経歴の異なる社外役員が協力して、会社の持続的成長に貢献することが重要ですが、その中で、私の社外役員としての役割は2つあると考えています。

まず、財務情報等の信頼性の観点から、会計・監査の専門家として、会計監査人との監査役等とのコミュニケーションの促進に努めています。具体的には、会計監査人からの各種報告は、会計・監査の専門用語を多く含むため、公認会計士である監査役が補足するほか他の監査役等にとって理解しやすくなる場合があります。また、会計監査人へ提供すべき情報や確認すべき事項がある場合には、他の監査役等と事前に内容共有の上、会計監査人の理解がより深まるようなコミュニケーションを行うよう心がけています。

疋田 鏡子

現在、上場会社（東証プライム）3社の社外役員

- 監査等委員会設置会社の社外取締役（監査等委員）
- 監査役会設置会社の社外監査役

1995年 公認会計士登録
2019年 監査法人退職、疋田公認会計士事務所開設（現在に至る）
2021年 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授（現在に至る）
2022年 日本公認会計士協会理事（現在に至る）

実力主義の監査法人で幾多の難局を乗り越え、現在、社外役員として活躍中の5人の女性会計士を紹介します。

適度な距離感で信頼関係を築きつつ、会社の課題や事業リスクについて、遠慮せずソフトに質問し意見する。これができるのは女性会計士特有かもしれません。

社外役員登用をお考えの際は、女性会計士を検討されてはいかがでしょうか。

もうひとつの役割は、企業の成長のための助言です。取締役会や常勤監査役から得た情報をもとに、会計の観点から気を配るように努めています。

また、非常勤の立場であるため、役員業務以外の時間もあります。これらの時間も役員業務に対して良い影響をもたらすよう、積極的に活用していこうと考えています。たとえば、大学院では、公認会計士などを目指す学生や、財務知識を深めたい社会人学生に対し、実務家教員として会計・監査の講義を行っています。学生とのディスカッションを通じて、学生たちの多様な意見や素朴な疑問を聞くことは私にとって大きな刺激となっており、このような経験も社外役員の業務に生かしたいと思います。

2024年、ある監査法人が「女性が活躍する会社BEST100*」のBEST10にランクインするなど、会計士業界は早くから女性活躍推進のため様々な施策に取り組んできました。女性会計士としてこのような経験も、何らかの形で会社のお役に立てることができれば幸いです。

※女性が活躍する会社BEST100：女性誌「日経WOMAN」と日本経済新聞社グループの「日経ウーマノミクス・プロジェクト」が実施する「企業の女性活用度調査」の結果をもとにした総合ランキング。

今の活動による経験や学びを、
役員業務に活かすことを課題に。



女性会計士は空気を読んでも
付度ははしないです。

監査法人時代は管理職として、東証プライム企業の監査からスタートアップ支援まで幅広く従事しました。女性の監査主任は初めて、という会社も多かったです。

社外役員として就任した現在も、取締役会で女性は少数もしくは私一人であることもあります。特段気にせず発言しています。監査法人時代、会計処理や内部統制上の課題につき、時には難しいお話も交えクライアント企業と意見交換してきた経験が活かしているのだと思います。

スタートアップの常勤取締役と監査役、上場企業の取締役（監査等委員）に就任するなど、様々な立場で経営に参画してまいりました。会計監査、経営ガバナンス等、知見を有する専門家として、さらに研鑽していきたいと考えています。

吉川 和美

現在、上場会社（東証プライムと東証グロース）2社と上場準備会社1社の社外役員

- 監査等委員会設置会社の社外取締役（監査等委員）
- 監査役設置会社の社外監査役（常勤）

1999年 公認会計士登録
2019年 監査法人退職、吉川和美公認会計士事務所開設（現在に至る）
2020年 上場準備会社の管理担当常勤取締役（～2022年9月）
2025年 日本公認会計士協会近畿会 社外役員専門委員会委員長

上場（準備）会社において、会計専門家としての知見、ダイバーシティ推進の観点から、女性会計士が常勤監査役に就任するケースが増えてきました。また、常勤監査役としての実績を経て、他社の非常勤役員となる場合も多くなります。常勤監査役として経営陣に対峙した経験、他社の非常勤役員を兼務すること等で得られる客観的視点は、社外役員としての言動により深みを与えると期待されます。

公認会計士としてのあらゆる経験
が社外役員の務めに生きている。

中小規模の会社の社外役員として、縦割りになりがちな各部署をつなぐ役割を担いつつ、それぞれの立場に配慮しながら、会社のガバナンス向上につながる体制構築を支えていきたいと考えています。

そのため、様々な会社・役職の方々や交渉してきた監査法人時代の経験やバランス感覚に加え、社外役員就任後に培ったヒアリング力や気配り、粘り強さと図太さを発揮して、地道に社内ネットワークを切り拓き、重要な情報が正確かつタイムリーに入るよう働きかけています。

軽微に見える事象も大きな問題の前兆かもしれません。客観的かつスピード感ある判断が求められる社外役員という役割には、常に緊張感を伴いますが、大きなやりがいを感じています。

小田切 智美

現在、上場会社（東証プライムとTOKYO PRO Market）2社と上場準備会社1社の社外役員

- 監査等委員会設置会社の社外取締役（監査等委員）
- 監査等委員会設置会社の社外取締役（監査等委員）（常勤）
- 監査役会設置会社の社外取締役

2004年 公認会計士登録
2019年 監査法人退職
2021年 小田切智美公認会計士事務所 開設（現在に至る）

ガバナンス機能を発揮することで
会社成長に寄り添い、支える

経営陣と信頼関係を築き、会社成長や経営環境の変化に向き合いながら、経営の健全性を維持するガバナンス機能を発揮することを大切に考えています。また、その職責を果たすための在り方を、自問しながら日々取り組んでいます。会計士としての専門性・独立性、女性視点からのバランス感覚等、今ある引き出しを総動員するのみならず、学びにより幅を広げる活動の重要性も痛感しています。社外役員間、監査法人、内部監査室・統制部門との連携も不可欠であり、関係構築に努めています。

リスクを丁寧に拾い上げ、提言として経営へ反映させることで、健全な経営に貢献する社外役員として、これからも誠実な姿勢で努力を重ね、前向きに挑戦してまいります。

関 美緒

現在、上場準備会社1社と上場会社（東証スタンダード）1社の社外役員

- 監査役会設置会社の社外監査役（常勤）
- 監査等委員会設置会社の社外取締役（監査等委員）

2006年 公認会計士登録
2011年 監査法人退職
2019年 せき公認会計士事務所 開設（現在に至る）